



新潟県立加茂農林高等学校

- 所在地 〒959-1325 加茂市神明町2-15-5
〔最寄りの交通機関〕
JR信越線加茂駅下車、徒歩15分
- 電話 0256-52-3115
- FAX 0256-53-2672
- URL <http://www.kamonorin-h.nein.ed.jp/>
- 校長名 熊谷 秀則
- 課程 全日制
- 創立 明治36年(1903年)5月11日
- 生徒数 553名 (令和元年5月1日現在)



学科 (コース)	1年		小学科	コース	2年		3年	
	男	女			男	女	男	女
農業科	101	80	生産技術科	作物	15	5	20	0
				野菜	11	10	11	9
				果樹	9	13	12	8
				草花	5	14	5	13
				動物	4	18	6	14
			食品技術科	食品製造	3	19	5	15
			環境緑地科	緑地工学	16	6	9	9
環境土木	13	3		11	0			
生物工学科	8	11	生物工学科	生命情報	14	10	9	9
計	109	91			90	98	88	77
	200				188		165	

●入学者選抜方法 (平成31年度入学者選抜)

学科	募集 定員	特色化選抜	一般選抜	
農業	200	なし	調査書：学力検査 4 : 6 (1,000点)	学校独自検査・配点 (集団面接・100点)

※募集学級定員は平成31年度のもので、令和2年度募集定員等は10月に決定します。

I 学校目標

○「食料と環境」を支えるニューリーダーを育む

新潟県の農業指導者を育てる目的で創設された加茂農林高等学校は、平成24年に創立百十年を迎えました。本校の教育は「人間づくり」を根幹としています。それは、農業教育を通じて、豊かな知識と情操、こうありたいと思う意志の「知・情・意」を兼ね備えた「人に信頼され世の中から必要とされる人間づくり」を行うことです。今、「食料と環境」を支える農の分野は、人間がよりよく生活するための条件を整える崇高な役割を担っています。食料・環境問題の解決が国際的なテーマとなっている現在、加茂農林高等学校では、「食料と環境」の将来に責任を持つニューリーダーの育成を目指しています。

教育目標

- 1 きめ細かな学習指導を行い、
生徒個々の能力を伸長するとともに、豊かな創造力を育成する。
- 2 道徳的心情を培い、
良識を育成し、厳しい躰教育を通して、正しい生活習慣を身に付けさせる。
- 3 スポーツを奨励し、
健全な心身を育成するとともに、質実剛健の気風と勤労の精神を培う。

○ 校訓

- 「愛敬協調」 愛しうやまい相互に協力し合うこと。
「公正廉直」 明白で正しく清廉で潔白なこと。
「勤儉質朴」 勤勉かつ儉約、かざり気なく律儀であること。
「責任実行」 責任を果たし、すすんで物事を行うこと。
「師長尊重」 目上の人を敬うこと。



Ⅱ 目指す学校像のコンセプト

- 「人に信頼され、世の中から必要とされる人間」を育成する学校を目指します。

[コンセプト]

植物には水を、動物には餌を、人には思いやりを！

— 植物の声、動物の声が聞こえる、規範意識を育てる躰教育の実践校 —

- 新潟県央工業高校・三条商業高校と共同で連携組織「トライ・フューチャー」を設立しています。三校が連携して地域イベントの企画・運営を行うなど、県央地域と結びついた活動を行い、生徒の自発性やふるさとへの愛着を育むとともに、地域に貢献する人材の育成を目指します。

- 平成 29 年度からの 3 年間、文部科学省事業「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」(SPH) の指定を受け、地域の様々な課題を自ら解決できるリーダーを育てるため、外部連携や課題研究の充実、授業改善など様々な研究を学校全体で行っています。協働的課題解決能力と自己教育力を兼ね備え、自ら未来を切り拓く人づくりを目指します。

[研究テーマ]

HSJ (ホップ・ステップ・ジャンプ) カリキュラムによる自立型地域リーダーの育成
～協働的課題解決能力と自己教育力を兼ね備え、自ら未来を切り拓く人づくり～

- 平成 29 年度に「生命情報コース」を設置しました。バイオテックなどの研究に加え、地域や大学等と連携した体験的・協働的な活動を重視し、農業のリーダーを育成するコースで、大学への進学を目指します。

- 「平成 31 年度生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」に係る研修協力校の指定を受け、英語での表現力、コミュニケーション能力の向上を図るための授業改善に努めています。



Ⅲ 学校生活

1 各学科の特色、教育課程

入学時は農業科としてくくり募集しますが、生物工学科生命情報コースだけは、合格発表後に希望を募り、1年からコースを編成します。他は2年から、生産技術科5コース、環境緑地科2コース、食品技術科1コースの8コースに分かれて学習します。

生物工学科

農業生産に活用できるバイオテクノロジー技術などの学習を通して、より高度な生命科学技術を活用できる能力や態度を身に付けます。県内でただひとつの学科です。

○生命情報コース：1年では、地域や大学等と連携した体験的・協働的な活動を重視し、農業や生命科学の基礎的な知識や技術を学習します。

2年からは、1年次の活動を生かし、地域や大学等と連携した課題研究に取り組みます。自らが設定した農業や生命科学などのテーマ（課題）に沿って研究や実習を行い、その成果を発表します。

これらの取組をとおして、本県や日本の農業を担う人材の育成を目標とし、大学への進学を目指します。

環境緑地科

森林や農地の保全、森林資源の利用、都市環境・公共施設の緑化・デザインなどについての学習を通して、地域の環境緑化に関わる業務に従事する者として必要な能力や態度を身に付けます。

○緑地工学コース：環境を守る上で必要不可欠な森林や樹木の保育及び利用方法を中心に学習し、森林環境に関する基礎的な知識や技術を学びます。

○環境土木コース：街作りや道路、河川、農地などを中心に学習し、自然と調和のとれたよりよい社会環境の創造を進めるために必要な知識や技術を学びます。

食品技術科

食品技術者及び食品産業従事者として必要な食品製造の学習を通して、農業や食品関連の地域産業の発展に貢献できる能力や態度を身に付けます。

○食品製造コース：各種食品の加工や製造を中心に学習し、食品産業に関する基礎的な知識や技術を学びます。



生産技術科

農業の社会的・経済的意義と役割を理解し、栽培・飼育などの農業生産に関する学習や生産物の加工と利用に関する学習、農業経営に関する学習などを通して、農業の各分野で広く社会に貢献できる能力や態度を身に付けます。

○作物コース：我が国の農業の基幹作物である各種のイネを中心に学習し、栽培方法や農業経営についての基礎的な知識や技術を学びます。

○野菜コース：地域農業の代表的な作物のひとつである各種の野菜を中心に学習し、栽培方法や農業経営についての基礎的な知識や技術を学びます。

○草花コース：各種の草花を中心に学習し、草花の特性を理解した栽培技術や、生産された草花の利用方法についての基礎的な知識や技術を学びます。

○果樹コース：地域農業を支える作物のひとつである各種の果樹を中心に学習し、栽培方法や農業経営についての基礎的な知識や技術を学びます。

○動物コース：農業動物（牛、豚、鶏などの家畜）を中心に学習し、飼育方法や農業経営についての基礎的な知識や技術を学びます。

2 進路指導

漫然と高校生活3年間を過ごすことなく、入学と同時に就職すること、進学することの意味を考え、先輩の大学生や社会人から様々な貴重な情報を、学年別に適切な時期に提供するようにしています。生徒の第一希望を重視しながら、全人格的な進路指導を追求し、担任のみならず学年、進路指導部、コース担当者など、全職員一丸となって、組織的・計画的な指導を行っています。

今春の就職状況は、公務員に2人が合格（北陸農政局、海上自衛隊）するなど健闘し、就職希望者87人全員が就職しました。

また、進学状況は、新潟大学2人をはじめとして、大学・短大・専門学校等の上級学校に92人が進学しました。平成29年度には、大学進学を目指す「生命情報コース」を設置するなど、進学にも力を入れています。なお、進学希望者に対しては小論文・面接指導はもちろん、普通教科の補習指導も行っています。

3 農業クラブ活動

本校では、全校生徒が加入する全国組織の「学校農業クラブ」があります。毎年、各種発表大会や各種技術競技大会で、県大会を経て全国大会に多数出場しています。平成30年度の日本学校農業クラブ全国大会では、農業鑑定競技大会で2人が優秀賞入賞を果たしました。

また、地域連携活動として地元小学生を対象とした「アグリスタディ・ツアー（ふれあい農園）」年2回や、「クリーン作戦（市内清掃ボランティア）」を行っています。



4 クラブ活動

本校では、次の14の運動部、8の文化部、2の同好会があります。

<運動部>野球、男子バレー、女子バレー、男子バスケット、女子バスケット、卓球、柔道、陸上競技、スキー、空手道、山岳、サッカー、バドミントン、テニス

<文化部>生物、写真、美術・書道、JRC、茶道・華道、演劇、吹奏楽、農業（地域交流）

<同好会>社会研究、マンガ研究

【平成30年度の主な成績】

- 空手道部 …新潟県高等学校総合体育大会 女子個人組手 3位
国民体育大会新潟県予選会空手道大会 少年女子個人組手 3位
新潟県空手道選手権大会 少年女子個人組手 2位
空手道選抜大会県予選大会 女子個人組手 2階級で1位
空手道選抜大会北信越地区予選会 女子個人組手 2位
全国高等学校空手道選抜大会 5位
- 美術・書道部 …新潟県競書大会 準特選
- 吹奏楽部 …新潟県アンサンブルコンテスト 銅賞



5 インターンシップ、デュアルシステム

インターンシップとは、企業や農家などの実際の産業現場において、何日間か一緒に作業を体験し、働くことの意義や楽しさ、大変さを学び、自己の将来の職業選択に生かそうというものです。本校では、農家における研修も、企業における研修も、希望者を募り実施します。夏休みなどを利用し、3日間程度の研修となります。（農家研修については、農家に宿泊し早朝や夜の作業も体験できます。）

デュアルシステムはさらに長期間の研修で、夏休みなどを利用した10日間の就業体験です。

◎私は、三条市の農家で3日間、インターンシップを体験させていただきました。この3日間は、普段の学校での実習や家の手伝いでは体験できない貴重な農作業をさせていただきました。農家の方々から、とても優しく、わかりやすく教えていただいたので、初めての作業もスムーズにできました。農家さんから、コメを上手く育てるコツや苦労話を教えていただいたり、畜産農家の方から牛舎に連れて行ってもらったりと貴重な経験ができました。このインターンシップの経験を生かして、今後も頑張っていきたいです。（生徒の感想文より）

6 総合的な探究の時間

総合的な探究の時間は、毎週金曜日の7限に実施しています。年間の目標を設定し、それに基づいて、年間の活動内容が計画されています。

○1年 総合的な探究の時間「みのりタイム」の内容

自立型人材育成を目指し、学び方ガイドブックなどを活用して「自ら目的・目標を設定して課題解決能力を発揮する力」、「多様な他者と協働的な取組を行う力」、「自己教育力」の3つの力を育成する取組を計画的に進めています。

IV 進路状況

例年、就職希望者と進学希望者の割合は約半々です。1年次よりガイダンスや講習会などを開催し、生徒の自己実現を第一に、希望の進路実現に向け指導の充実を図っています。近年、大学等へ進学する生徒が増えつつあり、進学を希望する生徒への補習体制の拡充も行っています。

1 進路状況全般（過去3カ年）

進路先		平成30年度			平成29年度			平成28年度			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
進学	大学	17	4	21	19	3	22	12	7	19	
	短期大学	1	6	7	3	2	5	3	1	4	
	農業大学校	4	3	7	4	1	5	6	0	6	
	専修・各種学校	21	29	50	37	40	77	20	39	59	
	テクノスクール	7	0	7	7	0	7	4	0	4	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
就職	学校斡旋	県内	34	44	78	51	43	94	47	58	105
		県外	1	3	4	1	0	1	0	1	1
	縁故・家業		1	2	3	1	0	1	2	0	2
	公務員		1	1	2	3	0	3	3	0	3
家事・その他		0	0	0	2	2	4	3	1	4	
卒業生数		87	92	179	128	91	219	100	107	207	

2 大学進学者数（過去3カ年）

○大学合格状況

学 校 名	H30	H29	H28	学 校 名	H30	H29	H28
新潟大学	2	1	1	仙台大学	0	0	1
秋田県立大学	0	0	1	平成国際大学	0	1	0
敬和学園大学	0	1	0	東京情報大学	0	1	0
新潟医療福祉大学	0	0	1	北里大学	3	0	0
新潟工科大学	3	1	0	帝京科学大学	0	1	0
新潟国際情報大学	2	2	0	東京工芸大学	1	0	0
新潟経営大学	2	2	4	東京農業大学	0	2	1
新潟産業大学	1	2	3	東洋学園大学	0	0	1
新潟食料農業大学	1	4	0	日本大学	2	1	1
新潟青陵大学	0	0	1	明星大学	0	1	0
新潟薬科大学	2	1	2	金沢工業大学	0	0	1
長岡大学	2	1	1				

○短期大学合格状況

学 校 名	H30	H29	H28
新潟工業短期大学	1	2	1
新潟青陵大学短期大学部	5	0	0
新潟中央短期大学	1	2	2
明倫短期大学	0	1	1

3 職種別就職者数（学校紹介の県内、過去3カ年）

職 種	平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
専門的、技術的	6	2	8	4	1	5	3	2	5
事務的	1	1	2	0	6	6	1	4	5
販 売	2	6	8	3	3	6	2	3	5
サービス	1	9	10	3	2	5	1	4	5
保安	0	1	1	0	0	0	1	0	1
農林漁業	4	2	6	2	0	2	3	0	3
生産工程	11	25	36	34	26	60	24	35	59
運送・機械運転	1	0	0	1	0	1	0	0	0
建設・採掘	4	0	4	2	0	2	3	0	3
運搬・清掃・梱包	6	3	9	3	5	8	9	11	20
その他	1	1	2						
合 計	37	50	86	52	43	95	47	59	106

V 在校生からのメッセージ

- ◎ 環境土木コースでは、測量や設計、施工など、土木技術の基礎を学びます。道路や建物などを作るために大切な技術で、私たちの生活には欠かせない分野です。授業で勉強したことを現地でも使えるように、夏休みには加茂山測量をコースの恒例行事として行っています。また、測量士補をはじめとした専門的な資格をとれるチャンスが多いことや、実践的な技術を学べる現場見学の機会が多いことも魅力です。（環境土木コース 2年生）
- ◎ 私は現在果樹コースで学習しています。果樹コースでは、川船農場へ行き、ブドウやモモ、ナシなどの果樹の管理を行っています。成長した果実を収穫し、包装をして、加茂市内へ販売をしに行きます。自分たちが大切に育てた果実を食べて、「おいしかった」という感想をいただいたときは、とてもうれしいものです。また、完売したときには、自分の力で完売することができたという自信になります。植物を育てる喜びや自分を成長させることができる、とても楽しいコースです。（果樹コース 2年生）
- ◎ 生命情報コースでは、一年生で企業見学や地元大学の授業を受けることができます。企業見学では、植物工場や六次産業化を行っている観光農園、農業機械メーカーなど、実際の現地に行き、目で見て体験しました。大学の授業では、地元大学の先生に來校していただき、農業に関する講義を受けたり、実験・演習をしたり学びを深めました。
- 二年生になると、一年生の実体験をもとに自らテーマを決め研究に取り組む「課題研究」の授業があります。私はいま、植物工場を活かした農業ビジネスについて研究しています。自分が学習して理解を深め、研究することで、地域の地域でも何かできないかと思い研究テーマにしました。
- 私は、生命情報コースで様々なことを学び、体験することで、将来の進路が広がっていると実感しています。この研究に真剣に取り組む、自分の将来の目標に向かって頑張りたいと思います。（生命情報コース 2年生）

VI 学校納付金

学校納付金については、次のものがあります。

<参考> 平成31年度 第1学年 (令和2年度は金額、回数が変更になる場合があります。)

費目	年間納入額	4月の納入額	納入回数
(1) 入学料	5,650円	(4月 5,650円)	4月のみ
(2) 授業料(全日制)	118,800円	(4月 9,900円)	12回
※ 所得制限により就学支援金が支給されない世帯(保護者等の県民税所得割額と市町村民税所得割額の合計が507,000円以上の世帯)については、上記の授業料を納めていただきます。 なお、就学支援金の支給の手続き等については、別途お知らせいたします。			
(3) 生徒会費	6,200円	(4月分 1,700円)	7月まで4回で納入
(4) PTA会費	4,000円	(4月分 1,000円)	7月まで4回で納入
(5) クラブ活動助成金	2,000円	(4月分 1,000円)	4月、5月の2回
(6) 修学旅行積立	81,000円		5月から月9,000円で9回

※注1 「センター掛金等」は、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度掛金(1,780円)、県高等学校体育連盟分担金(600円)、県高等学校文化連盟分担金(350円)をいいます。

この他に、入学時に下記の費用が必要となります。

- ① 制服 男子(希望者のみ) 上着、ズボン、長袖Yシャツ、半袖Yシャツで 35,500円
女子一式(上着・冬スカート・リボン) 25,430円
(希望者のみ) 長袖ブラウス 3,100円 半袖ブラウス3,000円 夏スカート 9,000円
スラックス11,300円 ベスト 4,600円

- ② 教科書 農業科9,273円 生物工学科生命情報コース9,078円

- ③ 学年諸経費

実習服、体操着、運動靴、副教材、実習費、高体連・高文連分担金、日本スポーツ振興センター共済掛金、その他の費用が入学時に必要となります。

(平成31年度第1学年実績 年額90,000円)